

県立高等学校編成整備に関する懇話会における意見への対応表【編成整備実施計画（素案）】

素案	懇話会意見	対応方針
<p style="text-align: center;">この枠内には、素案の記述を記載します。 (関連部分のみ抜粋)</p>	<p style="text-align: center;">この枠内には、懇話会意見を記載します。 (意見の順番は原則として懇話会教育長報告と同じ ですが、類似意見をまとめる等で一部入れ替えて います)</p>	<p style="text-align: center;">この枠内には、懇話会意見に対する教育委員 会の対応方針を記載します。素案の記述に加除 修正があれば、修正内容を記載します。 懇話会意見への対応は、地域からの意見や要 望も反映させて記載します。</p>

県立特別支援学校編成整備に関する懇話会における意見への対応表【編成整備の基本方向（素案）】

素案	懇話会意見	対応方針
<p>P1～P2</p> <p>I 沖縄県立高校編成整備実施計画の策定について</p> <p>1 基本事項</p>	<p>○基本事項の部分で「フューチャースクールについて」は脱落してはいないか。</p> <hr/> <p>○学科の割合で、普通：専門：総合＝6：3：1で、普通が6というのはよくないと思う。沖縄では第3次産業が80%と他の産業と比較して多いという特徴があり、第3次産業が多くなればなるほど普通科志向になると考える。大学進学率を上げるということを県が目標としているのであれば、進学に有利なのは普通科であるので、普通科を7、8割にはあげる必要があると考える。</p> <p>○学科の割合については、事務局は「6：3：1を目安とする」と話していたのでこれでよいのではないか。</p> <p>○全国の普通科の平均が65%であるので、沖縄は全国の平均でいいのかということの問題提起したい。</p> <p>○地域によっても違いがある。沖縄でも地域によって差がある。これを一つの目安にしようということである。</p> <p>○実際には、この6：3：1というのは編成整備に大きく影響すると考える。</p>	<p>編成整備の基本事項概要は、基本方向の再掲であり、フューチャースクールについても「県立高等学校編成整備の基本方向」のP16Ⅲ新しいタイプの学校 1 セーフティネット的な学校の設置で示してあります。</p> <p>P1～P2の囲み部分 「基本方向」編成整備の基本事項は削除します。</p> <hr/> <p>編成整備の基本事項概要は、「県立高等学校編成整備の基本方向」の再掲であり、学科の割合についても基本方向P14（3）各学科の定員の割合で示してあります。</p> <p>学科の割合は、中学生の志向調査等を元に定めたもので、年毎の定数管理でも行っております。</p> <p>普通科の在り方については、</p> <p>「普通科に学ぶ生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等は、一層多様化してきており、類型やコースの設置や選択幅の拡大など、個に応じたきめ細かい指導の充実を図る必要があります。また、義務教育段階での学習内容の確実な定着と学び直しを図られるような学校設定科目の設置等、生徒の実態に応じた教育課程の工夫を促進し、地域の特性を活かした特色ある教育活動を一層推進します。「基本方向」P19 Ⅳ学科の配置と在り方 1 普通科及び</p>

	<p>○中高一貫校については、うまくいっているところもあるが、あまりうまくいっていないところもある。課題の中で、学力試験がないので学習への意欲面が湧かないと指摘されていて、問題提起もされている。連携については検討する必要があると思っているか。</p> <p>新しい実施計画（素案）では伊良部、本部はなくなってしまうが、久米島は続けていくのか。</p> <p>3校は学校を活性化させようということで中高一貫校を導入した結果、生徒は増えたのか、減ったのか、ということである。</p> <p>割合として30%~50%以下で推移しているということは、地域の生徒が地域の学校に行かなくなったということについてはあまり効果がなかったということか。地域の子供達が地域の学校への進学が期待できるかということである。</p>	<p>その他の専門学科（1）普通科」 で示してあります。</p> <p>P1~P2の囲み部分「基本方向」編成整備の基本事項は削除します。</p> <p>「基本方向」では、現行編成整備を総括しております。既存の高校については引き続き充実させていくとしています。</p> <p>連携型中高一貫教育を導入した当初は、本部高校の進学率は上昇しましたが、少子化等もあってその後連携中学校からの志願率は下がっている現状があり、30%~50%で推移しています。</p> <p>連携型の中高一貫教育は、入学率を上げるという一定の効果はありましたが少子化等の課題があり生徒が減少してきたものと考えます。</p> <p>それぞれの学校も努力し、コースの設置等特色ある学校に取り組んできています。</p> <p>地域の子を地域で育てるというのは大切なことであり、6年間のゆとりある教育課程の中で取り組む中で3校とも進路決定率が県平均を上回っており、教員の交流や派遣授業等評価できる部分もあります。</p> <p>簡便な試験をするということで学力を付けて高校へ進学させるということにも取り組んでおります。</p>
<p>2 計画実施時期</p>	<p>意見なし</p>	
<p>P3~P13 II 前期計画 平成23年度~平成29年度 1 北部地区高等学校再編計画</p>	<p>○北部地区説明会では、計画に反対という意見があったということで</p>	<p>11月19日に実施した北部地区説明・意見交換会で</p>

	<p>あるが、逆に、地域から対案はないのか。北部地区も少子化でこのままではいけないという認識は一緒であると捉えてよいのか。</p> <p>○北部からの流出には、保護者が経済的に厳しいが子どもの希望をかなえるために他地区へ出ているという状況もある。</p> <p>○地域からの意見などに対してどのように対応するのか。この場でどのような議論をするのか。新聞を読んでいるだけではその辺が見えてこない。例えば、ゴルフの活躍が学校の活性化に繋がっているという意見が出ているが、今後これを地域活性化にもつなげようとしているのか。どのような経済効果が期待できるのかなど、資料の提供を求めることができるのか。</p> <p>○地域ニーズのある大学進学拠点校ということにつながるのではないのか。また、名護高校に中等教育学校をつくるというのも求心力があるのではないかと思う。</p> <p>○過去5年で中南部の理数科へ約110名いるということだがこれは、理数科を希望してではなく、中南部へ出たいということだと思う。そういうことであれば、北部に中高一貫の超エリート校をつくる方がよいのではないか。</p>	<p>は、具体的な対案という意見はありませんでした。</p> <p>しかし、辺土名高校については、（理数科ではなく）地域のニーズは普通科であるという意見、本部町で意見交換した際は福祉科の提案がありました。</p> <p>今回は、懇話会と並行して地域への説明会も行っているため、そこでの意見に対しては、パブコメ等への対応で行政としての対応方針を示す必要があると考えます。</p> <p>地域のニーズに対応した学校づくりということで、名護高校へ理数科を設置することを考えております。</p> <p>中等教育学校については、今後10年間において諸々の課題の解決や生徒・保護者・地域のニーズ等を踏まえた上で設置の有無を含め検討することとします。</p> <p>（素案）P23 V長期的な計画</p>
<p>(1) 辺土名高等学校を名護高等学校の分校化</p>	<p>○辺土名高校については、普通科として普通コースと環境コースということにしてはどうか。</p> <p>○北山高校の理数科と名護高校の理数科を分けて考えた方がよい。北部に理数科が必要かどうか論点になる。今は、北山高校の理数科を名護高校に移すということで反発が大きいと思う。</p> <p>○名護高校の理数科設置がいいのかどうか。普通科と理数科が併置された学校で、違いがわかりにくいということで理数科への進学者が減っている現状があるということもあった。</p> <p>○辺土名高校に環境科（理数科）をおくためには、名護高校（本校）にも理数科をおく必要があるのではないか。</p> <p>○辺土名は普通科にして、名護の理数科の職員が授業にいったらよい</p>	<p>普通科とすると名護高校に進学してしまうという学校からの意見もあり理数科という形にまとめております。文系志望の生徒に対しては、他校の理数科でも対応している現状があり、辺土名高校でも十分対応可能であると考えます。</p> <p>普通科では環境に関する学習条件を整備することが厳しく、理数科だと職員配置も有利に働くことから理数科の方が地域へのインパクト、イメージも良いということが理数科設置の理由です。</p> <p>普通科と置いた場合、ほとんど名護の普通科に流れるという意見がありました。環境を普通科に設置</p>

のではないかと。環境科をおくには理数科が有利なのはわかるが、地域のニーズは普通科で、普通科を希望する生徒のことを考えると普通科ではないか。

- 分校の辺土名を理数科とするのなら本校にもないといけない。
- 規模の大きい名護高校と規模の小さい辺土名高校に理数科があった場合、辺土名地域の生徒がどこの理数科を選ぶだろうか。普通科、理数科、どちらを設置した方が良いのか、判断は難しい。
- 環境を充実させるとありながら、理数科の中に環境コースと理数コースの二つを置くということであるが充実するのか。
- 環境を重視するなら環境科としたらよいのではないかと。
- 現状は、環境科の出口がはっきりしないから志願者が伸びない。入学者が少ないから環境コースと残り半分は普通コースという考え方であるが、理数科とした場合は普通科を希望する生徒は名護に通学しないといけなくなる。距離的問題、地域の負担を考えたときどちらがよいか。
- 文系にも対応すると言っているが、理数科とおけば理数科としての教育課程が組まれるので、やはり理数科であり納得できない。文系は名護高校に行きなさいということである。
- 辺土名高校の環境科は卒業後どのような進路に進んでいるか。環境科を活かした進路に進んでいるかどうか。学びを活かせる受け皿があるかどうか。

するよりも理数科に設置した方が職員の配置等で有利であり、学習環境が整備充実されることにより、普通科より理数科の方が志願者は増えると判断しました。

また、名護高校に理数科を設置してしっかり進学ニーズ等で生徒を受け止めれば、生徒の流出は止まると考えております。同時に、辺土名にも生徒がとどまるということが考えられ、理数科は地域の進学ニーズにもある程度応えられるのではないかと考えます。

これまでの志願状況からすると環境科を単独で設置できない状況があります。現在の環境科は理数科と類似しており、理数科の環境コースとして設置し、将来的に生徒数が増えれば環境科とすることも考えられます。

現在でも生徒が名護市内の学校に通学している状況はあります。生徒のニーズ、志願がどこに向いているかを総合的に考えました。また、普通科ニーズ、文系等でも理数科で柔軟に対応できるのではないかと検討しました。小規模になると全てのニーズに応えるというのは厳しいと考えます。

文系志望の生徒に対しては、他校の理数科でも対応している現状があり、また、現在でも多様なニーズに対応しているので辺土名高校でも十分可能であると考えます。

これまで出口の課題はありましたが、保護者、NPOも含めて地域として受け入れていく用意があり、環境科を残して欲しいという声がありました。環境科の就職先として、ホテル関係、観光・リゾート関係などにも進んでいます。

- 北山高校から理数科が名護高校に移ると北山高校の定数確保が難しくなるのではないかと心配される。
- 名護高校を拠点に北部地域の大学進学体制を整えたいという意図があるということであるが、他の学校は落ち込むことが考えられるが、学校まかせでない支援を考える必要がある。
- 北山高校の1クラスと流出の20名を考えると2クラス分はないのではないか、1クラスでよいのではないか。
- 名護高校では2学級で大丈夫であると考えているのか。実施して後に、普通科を増やすということもあるのか。
- 名護高校の普通科はそのまま、2クラスの理数科プラスで考えているのか。
- 前の議論では、普通科と理数科が併置する学校では理数科の定員割れを起こす現状があるという指摘があった。
- 独立した分校なのか。本校である名護高校から教師の派遣等、人的学習環境は保障されるのか。
- これまでの意見をまとめると、辺土名高校は生徒数が確保できないことから、分校、理数科とすることでまとめたい。
- 本校の理数科職員が分校に行くなど、支援体制を強化する必要がある。計画実施に際しては、これらに留意して辺土名高校は理数科とするというにしたい。

学校としての進路決定率が、平成22年度約96%、21年度85%、20年度92%、19年度95%となっております。

コースの設置を含めて、特色ある学校づくりに取り組む必要があると考えます。名護高校に理数科を設置し北部から他地区への流出を止めることを前提に考えております。北山高校は統合して規模を拡大しコースの設置を含めて、特色ある学校づくりに取り組む必要があり、北部地域全体として考えました。

様々な支援を図りたいと考えております。一定の規模があれば、職員数等学習環境が整備でき特色ある学校づくりための環境が整うと考えております。

他地区の大規模校に進学している生徒もおり、実数だけでなく潜在的なものもあると考えております。

普通科の2クラス減を考えております。

北山高校の理数科は小規模地域の中なので定員を満たすことが、厳しいのではないかと考えます。他の地域、離島等でも専門学科等では同じ状況が見られます。

環境科の特色を出すためには理数科とし、もちろん生徒の学習環境は保障されなければならないと考えます。

辺土名高校の学科編成については、パブコメ終了後の意見を集約し判断したいと考えます。

(2) 北山高等学校（理数科）の移設

○「北山高校の理数科を名護高校へ設置換えし、名護高校の理数科とする。」ではなく「名護高校へ理数科を設置する」ではどうか。

○辺土名高校に理数科を設置するとなると名護高校にも理数科を設置する必要がある。名護高校に理数科が設置されるのだから北山高校の理数科を吸収合併しようということになるのか。

○理数科はどうかということを行ったが、名護高校の理数科が見通しがあるのならその案でよいのではないか。

○北山高校のシンポジウムで話し合われた、北部に貢献できる医師を育てる理数科ということは、名護高校に理数科を置くことでも、医師を育てるという意味では北部という視点から理解してもらえないかと思うので、今の案で進められるのではないか。

○理数科自体が不人気で、定員割れがあるということであったが、名護高校に移しても同じではないか。

○北山高校の理数科を廃止して普通科のみとすることには、理数コースとすることも考えているのか。理数コースとなれば、現在の理数科より学習体制が弱くなるのが考えられる。今後も引き続き議論しなければいけないことだと思う。

○最近の理数科の入試状況をみると、学校は努力しているが志願状況は半分に近くなり厳しい状況がある。

○北山高校の市町村別入学者の数を見ると、名護高校からも北山高校に進学している。このことは名護高校に理数科ができたなら生徒は名

名護市から、大学進学に特化した学校設置の要望が以前からあるため、そのニーズに応えるため名護高校に理数科を設置したいと考えます。

また、北山高校は理数科と普通科により、学校の活性化が図られるとの地域の強い要望があり、理数科は現状のままとします。

【修正】素案P7 (2) 北山高等学校（理数科）の名護高等学校移設 → 削除

【新規】(2) 名護高等学校に理数科設置

北部地区高校再編計画は、個別の学校で考えているのではなく北部地区全体として計画したものです。

大学進学や理数科へのニーズに応えるため、名護高校への理数科設置を考えています。名護高校へ設置すれば、他地区の理数科へ進学していた生徒や普通科に進学している生徒の流出にも歯止めになる可能性があります。

理数科については、平成23年度入試結果で見ると北山高校の志願率は57%で、北山高校以外の理数科の志願率は1倍を超え、充足率でも球陽高校と向陽高校が0.98の他は全て100%となっております。

名護地域には、国公立大学進学に特化した学校設置の強い要望があり、名護高校には理数科を設置しその役割を担うことでニーズに応えたいと考えます。

【修正】北山高校の理数科は、学校全体としての活

	<p>護高校に戻り名護高校が増えることになる。</p> <p>○大学進学を希望する生徒が他地区へ出ている現状がある中で北山高校より名護高校に理数科を設置した方が、大学進学ニーズに応えられるのではないかと考えるという考え方である。</p> <p>○募集停止にすかどうするか。判断が難しいが【効果】④「北山高校の普通科は、学校と地域との関係が良好に保たれており、～普通科のみの学科構成によりその特性を活かした学校としてモデルケースになる。」ということから、理数科は地域との関係が良好に保たれていないという印象が持たれる。【効果】④は載せる必要があるか検討を要する。</p> <p>○北山高校は、行事等で地域との関係が良好に保たれており、部活動は地域の中学校とのつながりも強い。しかし、理数科は実績も出していることも理解はできるが、志願状況等で数値として表れていない状況がある。</p> <p>○厳しい判断だが、案どおりでよいということにしたい。</p>	<p>性化に重要な役割を担っており、普通科と併せて存続の方向で考えますが、今後定員の過半数割れが2年連続して生じた場合は3年目から理数科の募集停止を行います。</p> <p>前期計画から中期計画へ移動</p> <p>【具体的な実施方法及び時期】 囲み部分</p> <p>ただし、実施期間までに本部高校が定員3クラスを満たした場合は、計画を再検討します。</p> <p>また、北山高校理数科が今後定員の過半数割れが2年連続して生じた場合は3年目から理数科の募集停止を行います。</p> <p>【効果】④は削除します。</p>
<p>(3) 本部高等学校と北山高等学校の統合</p>	<p>○本部町の成績上位の生徒が、相当数名護高校に進学している現状がある。本部高校を再生させるのはその辺に対応する方法を考える必要があるのではないかと考える。現状でも本部町の中学生の約半分は本部高校へ進学している。これからすると本部高校を廃校にするのはまだ早いのではないかと考える。生徒数減少傾向については、学級数をたむ方向で対応できないか。</p> <p>○ある程度の生徒数がいた方が教育効果があるという建前論はわかるが、地域の小規模校、地域も一緒になって取り組んでいる学校を残すにはどうしたらよいか考える必要があるのではないかと考える。</p> <p>○本部高校と北山高校の部活動状況の表では、統合で都合がいいのはバドミントン部だけで、これだけに効果があるように見える。</p> <p>○北山高校の理数科は、設置のときに積極的に働きかけ、取り組んだという経緯などから、いずれはコースにしていくということも視野</p>	<p>特色ある学校づくりをするには、ある一定規模が必要であり、北山高校も含めて広い意味で一定の規模をつくり、教育の条件整備を図り教育活動の活性化を図っていくことが大切だと考えます。</p> <p>統合すると部員数、生徒の選択肢が増え、部活動が活性化し、統合前の掛け持ちの課題等も解消されたと考えます。</p> <p>小規模校の支援については、連携型中高一貫教育の導入や、人員加配、施設整備等を行なってまいりました。</p> <p>本部高校は3クラス定員（120人）ですが、1年生が約90人、2年生が約50人、3年生が約70名でありコース制の設置や部活の活性化を図ることは学校としては厳しいと考えます。</p>

に入れて存続させてはどうか。

- 今、小・中学校でもキャリア教育が行われていて職業に対する意識を持っている生徒が中南部に出ていると考える。北部に理数科や国際関連学科のような魅力ある学科ができれば生徒は戻ってくると思う。現在、本部から約半数流出しているというが、これは学校側の取り組み次第で生徒は戻ると考える。
- 本部高校については、名護から離れた本部を残す方が北部全体の発展につながると考える。経済的負担を小さくして教育効果を高めるということが望ましいと考える。県外から移住者も増えている現状もある。
- 統合したら北山高校は普通科4クラスと想定しているがどうかと思う。本部町で生徒数の多い本部中の生徒は、北山高校より名護高校に向かうと思う。統合したら4クラスになるというのは見通しが甘いのではないか。生徒は名護に集中してしまうことが予想される。
- 連携型中高一貫校については、多くの学校との連携ではなく、学校を絞って連携を密にしたら、効果をあげることができるのではないかと考えている。そうすることで中・高の交流の密度が高まり、地域の中高連携に対する期待が高まると考えている。
- 他の地域についても言えることである。地域が学校と一体になって頑張ろうと取り組んでいるので、条件を付けて存続させてはどうか。
- 町をあげて本部高校に対する期待感が高まっているところなので、これを活用し連携型中高一貫教育校から併設型にしたらどうか。
- 町との連携もとれていることから、コミュニティースクールのようなものでもよいのではないか。
- 規模を縮小して残すにしても、国際関連学科やまたは、フューチャースクールなど特色をつくってインパクトのある学校づくりをしてはどうか。

キャリア教育は幼小中高を通して、体系的に進められるものであり、各学校は生涯にわたり社会人・職業人としてのキャリア形成を支援していく機能の充実を図ることとありますので、北部地区の既存の学校でも対応できなければなりません。

北山高校の理数科は定員割れの状況ではありますが、統合した場合はコースとして設置することも可能ではないかと事務局でも議論しております。

中学生には他地域の学校やその地域にない専門学科等へ進学したいという希望もあるので、その希望を止めることはできないと考えます。

本部から名護市内へは約38%の中学生が進学しています。また、上本部中学校からは北山高校に進学している傾向も見られます。

その理由としては、普通科以外の学科に進学することや、本部高校は小規模であることで部活動など生徒のニーズに応えられていない部分もあると考えます。

統合してある程度の規模を確保し、特色や魅力ある学校づくりを推進することで本部半島全体として活性化も図られるものと考えます。

本部高校と北山高校の統合については、地域の強い存続要請と、今後の入学状況等の推移を検証するため、中期計画に移行することとします。

【修正】素案P8（3）本部高等学校と北山高等学校の統合 → III 中期計画

本部高校は、地域の強い存続要望があることと、懇話会の御意見において、北山高校との統合は時期

		<p>尚早との意見が主流であること。さらに、本部高校の平成23年度入試において、入学者が増える傾向が見られるため中期計画まで今後の入学者の状況を注視することとします。</p> <p>また、北山高校の理数科は学校全体としての活性化に重要な役割を担っており、普通科と併せて存続の方向で考えますが、今後の入学者の状況を注視することとします。</p> <p>【新規挿入】 【具体的な実施方法及び時期】 囲み部分 <u>ただし、実施計画までに本部高校が定員3クラスを満した場合は、計画を再検討します。</u></p> <p>また、北山高校理数科が今後定員の過半数割れが2年連続して生じた場合は3年目から理数科の募集停止を行います。</p>
	<p>○なぜ前期計画なのか。統合は中期でもよいのではないか。万が一統合したら経費が浮くわけだから、浮いた部分は統合した学校の充実に使うということは示してはどうか。</p> <p>○財政面だけではなく、教育予算に充てるということを示すことが、理解を求められる要因である。</p>	<p>予算は、総計予算主義で歳入と、歳出によります。一方の余剰分を一方の不足分へとストレートにつながるものではありません。しかし、教育委員会として何らかの収入がある場合は必要性があるものについて予算配分を依頼することは可能です。</p>
	<p>○本部高校は、存続させる方向である。その方法として、中高一貫の充実や学級減の方法等があるのではということである。</p> <p>○本部高校、辺土名高校、北山高校、名護高校の4校を絡めて 議論してきて、本部高校に関しては、地域に生徒がいるので いきなり廃校というよりは存続させる方向で一致した。</p>	<p>本部高校と北山高校の統合については、地域の強い存続要請と、今後の入学状況等の推移を検証するため、中期計画に移行することとします。</p> <p>【修正】 素案P8（3）本部高等学校と北山高等学校の統合 → III 中期計画</p>
<p><名護高校について></p>	<p>○基本方向で、既存の国際関連学科の充実を図っていくということが話し合われたので、名護高校に外国語を中心に置いた国際関連学科</p>	<p>英語及び国際関連学科については、近年志願率の低下がみられるため既存の学科充実を最優先に考え</p>

	<p>を設置してはどうか。中部のインターナショナルスクールを出た生徒にも対応でき、中南部への流出にも対応できる。</p> <p>○名護高校の理数科をどうするか、心配されるのは、ある一定の中南部へ生徒が流れるのを防ぐことは予想できるが、名護高校が拠点校になって生徒が集まってしまい、周辺学校への影響が心配される。</p> <p>○名護高校に理数科を2クラス設置することで普通科が減り、周辺校に普通科希望者が増え、逆に活性化する可能性もある。他地区への流失の歯止めになることが予想される。</p> <p>○名護高校に理数科を持ってきたら活性化することが予想されるが、逆に辺土名高校の理数科がぼやけてしまうことが懸念され、行政としてよほどの人的配置など特色を出す必要がでてくる。</p> <p>○名護高校に理数科を設置すると、辺土名高校の理数科がつぶれてしまうことが心配である。分校としても維持できなくなるのではないかと。</p> <p>○学力等の問題はあるが、学校は努力して大学進学等につなげているのが解る。辺土名の理数科については地域の理解を十分にしていくことが必要だと考える。</p> <p>○辺土名高校、北山高校、名護高校については、案どおりということでまとめた。しかし、様々な懸念事項があったので、留意していただきたい。</p>	<p>ております。</p> <p>名護高校に理数科を設置してしっかり進学ニーズ等で生徒を受け止めれば、生徒の流出は止まると考えています。同時に、辺土名や周辺地域の学校にも生徒がとどまるということが考えられ、理数科は地域の進学ニーズにもある程度応えられるのではないかと考えております。</p> <p>現在でも周辺地域から名護市には生徒が多く出ています。バスの便等の関係で東村からはほとんど名護市へ足が向いております。</p> <p>辺土名高校の理数科案は、生徒や保護者のニーズがどこに向いているか等を総合的に考えました。また、普通科ニーズ、文系等でも理数科で柔軟に対応できるのではないかとということで検討した結果です。</p> <p>小規模校になると生徒全てのニーズに応えるというのは難しいと考えます。</p>
<p>2 南部工業高等学校と沖縄水産高等学校の統合〔南部総合実業高等学校（仮称）〕</p>	<p>○南部総合実業高校に関しては、当該校の状況が理解されている話があったのでこれは了解となった。</p> <p>○南部総合実業高校の学科改編の設定理由がおかしいのではないかと。（現在の総合学科は～単位制の趣旨を生かした学習活動が行われていない）これが統合する理由であるとは言えないと思う。</p> <p>○統合に反対する理由が「専門性が活かさないのではないかと」という意見があるが、ガイダンス機能を充実させること。それを支える体制づくりを充実しないといけない。</p> <p>○留意事項を踏まえて南部総合実業高校については了解</p>	<p>統合した場合に総合学科にある水産系の系列を水産系の学科に移してスリム化すれば総合学科の特色を出せるのではないかと考えます。</p> <p>水産学科として25単位以上の専門科目が履修でき、総合学科との科目履修も実現できるので専門性は総合学科の系列より充実すると考えております。</p> <p>多様な選択制が行なわれることに伴い、生徒への</p>

<p>3 久米島高等学校（園芸科）の廃科</p>	<p>○久米島高校については過半数の定員割れがある状況で、普通科の定員割れも出てきていることから、素案のとおり了解となった。</p>	<p>ガイダンス機能の充実を図らなければならないと考えます。</p> <p>園芸科志望の生徒は少ないながら若干のニーズがあると判断しますが、単独の学科としては存続が厳しいため園芸科の特色を残しながら、普通科を改編することでより特色のある学科づくりが期待できるため、普通科に園芸コースを設置する方向で考えます。</p> <p>【修正】 囲み部分</p> <p>久米島高校の園芸科を廃科にし、普通科のみの学校に再編します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>久米島高校の園芸科を廃科にし、普通科に園芸コースを設置します。</p>
<p>4 八重山商工高等学校定時制課程改編</p>	<p>○前回の話し合いでは、夜間部の商業科を昼間の普通科にすることについては、他の高校に昼間部の普通科を増やすことは難しく、八重商工高校は定時のノウハウを持っているので導入しやすい、という説明があった。しかし、働きながら学ぶ生徒は少なくなっている現状はあるが、少数ではあるが働きながら学ぶ生徒の救済はできないものかという学校側からの意見もあった。</p> <p>○定時制の昼間部というのは午後1時か2時頃だと聞いたが、働きながら学ぶというのなら、この生徒たちはいつ働くのか。昼働いて、午後4時からというのがよいのではないか。敢えて昼間部として、夜間アルバイトするとなるとどうなのか。</p> <p>○八重山商工定時の実態調査では、回収できたのが41人、生徒数は47人、経営者1人、アルバイト25人61%、正規雇用が0、無職6人14%、その他（家の手伝い、店の手伝い）9人22%で昼間働いている人が減っ</p>	<p>定時制課程の就労実態調査では、無職か、アルバイトがほとんどで、正規雇用者は県全体でも2.3%、八重山商工定時制では0.0%となっています。</p> <p>また、全県の中学生及び保護者の学科ニーズ調査において、普通科志向が示されました。</p> <p>しかし、八重山地区の生徒の就労実態や地域全体の経済状況が、事務局の調査で捉えられなかった部分があることや、不登校経験者や成人してから入学した生徒については、全日制の生徒と活動時間が重なると学校に通いにくい等の事象があるため、学び直しの学校の特徴から離れる等の課題があります。</p> <p>そのため、八重山商工高校定時制課程商業科は、</p>

	<p>てきている。実態を踏まえて、昼間部に定時を設置した方がよいということ、中退した生徒が行き場を失っている、そのような生徒を受け入れるフューチャースクール的なものを考えてのことである。</p> <p>○泊高校の午前部のような朝から登校という形は、心因性の生徒への対応を考えると厳しいという判断だと考える。</p> <p>○教諭（指導者）負担が多くならないような配慮が必要である。</p> <p>○現在の定時制は給食があるが、昼間部ではなくなるので、その人たち（働いている人？）への配慮をよろしくお願ひしたい。</p> <p>○八重山商工高校定時の夜間部を昼間部へ移すということでもとめた。</p>	<p>次期編成整備計画においては、長期計画へ移動し入学者の状況をみながら、通常の数管理で今後判断します。</p> <p>【修正】素案P13 4 八重山商工高等学校定時制課程再編 → V 長期的な計画</p>
<p>P14～P18</p> <p>Ⅲ 中期計画 平成26年度～平成31年度</p> <p>1 新しいタイプの学校</p> <p>(1) フューチャースクール</p>	<p>○意見なし</p>	
<p>(1) 北谷高等学校</p>	<p>○前回に太良高校の視察報告があったが、北谷高校への設置ということで、一般枠は普通科2クラス、全県枠は普通科3クラス、単位制の普通科である。</p> <p>○北谷高校の定員割れは1クラス分の定員割れである。北谷高校の改革であれば、7クラスにしたらすむということではないか。7クラスのところを2クラスにするということは、地域の普通科を希望する生徒にとっては5クラス減ることになる。中退を1クラス分とすると4クラス分と考えることができるが、4クラスの学校を1校なくしたことで同じになるが、いかがなものか。</p> <p>○周辺校のクラス増とあるが、どこの学校の増というのはあるのか。</p> <p>○初めてのことであり、生徒が希望してくるかどうか、本当に3クラス生徒はいるのか。多いのではないかと思う。</p> <p>○周辺の適応教室に通級している生徒数は把握していないということ</p>	<p>当初、全県募集枠3クラス、一般募集枠2クラスで計5クラスを考えておりましたが、懇話会の意見や地域の意見等を参考に全県募集枠2クラス、一般募集枠4クラスで計6クラスを考えております。</p> <p>減となるクラス数については、生徒のニーズ、志願状況も踏まえながら中部地域全体でのクラス増で対応していきたいと考えます。</p> <p>関係機関団体と意見交換をする中で、行かせる、</p>

<p>だが、実態として、心因性の不登校が250人いるとしてもこの生徒たちがフューチャースクールに来るかどうか。不安材料として3クラスという数字が気になる。佐賀県では500人のうち1割しか確保できなかったということもあった。</p> <p>○心因性の不登校生徒を対象として、1クラス30～35人と考えているということだが、このような生徒を30名みることができるか疑問である。</p> <p>○佐賀県が、（心因性の不登校及び発達障害の生徒）500人に対し、40人（1クラス）を設置ということだったので、200人に対し100人（3クラス）の募集というのではなく、2クラスでよいのではないか。佐賀県が成功しているというのはこじんまりとしていることもあるのではないか。</p> <p>○上限は押さえられないのか。例えば、60人でも3クラスとし、TT等で授業をすることなど、指導面で手厚く対応する必要がある。</p> <p>○不登校の子どもたちが行きたくなるような体制をつくる必要がある。手厚い支援ができますよという対応を示す必要がある。</p> <p>○医療的ケアは必要ではないのかもしれないが、スクールカウンセラー、臨床心理士などの対応が必要になってくると考える。</p> <p>○一般募集枠を2クラスとした理由は、一般枠の生徒と全県枠の生徒との量的なバランスを考えてということだが、教育活動を活発にするには、4クラスが必要になってくるのではないか。部活動もするのだから活性化させるためには、ある程度の規模が必要ではないか。一般枠4、全県枠2でよいのではないか。</p> <p>○学校として活性化するためには、一般枠を4クラスにしてはどうか。</p> <p>○大方の意見は一般枠を4クラスがよいのではないかである。フューチャースクールの全県枠はあまり広げないで2クラスぐらいでスタートしてはどうか。</p> <p>○北谷高校については、全県枠を2ぐらい、一般枠を4ぐらいということではどうかということである。</p> <p>○素案の最後のイメージ図でクラス数があるが、内容には明記してな</p>	<p>しむけることの必要があるという意見を頂戴しております。</p> <p>基本方向でのパブコメ等では肯定的な意見が多く評価が高いことはありますが、従来不登校の生徒が足を向けてくれるかどうかについては懸念材料の一つとして持っております。</p> <p>佐賀県の太良高校の事例は、今後も本県の施策にとってよい参考となるものと考えております。</p> <p>スクールカウンセラー配置等については、フューチャースクールの特色を活かし、生徒のニーズに合わせた人員配置が必要になると考えます。</p> <p>今後も検討を重ねて必要な措置を講じていきたいと考えます。</p> <p>ご意見のとおり、2クラスでは学校の活性化を図る意味で厳しいことや、また地域からの入学者の確保という観点から一般募集枠2クラスから4クラスへ変更することと判断します。</p> <p>全県募集枠についても、開校当初の入学状況については不透明な部分がありますのでご意見のとおり2クラスで設定したいと考えます。</p>
---	--

い。今後はよく調整を図る必要がある。

- 気になるのは、実施時期で平成29年度に新1年生とあるが、その時に2,3年生がいるのではないか。単位制では多くの教室が必要であり、生徒がいると施設の整備をするときに困るのではないか。
- 普通科の生徒には単位制、2学期制を望んでいるのか。定員割れを起こすことが考えられるのではないか。一般枠2クラスでよいのではないか。
- 単位制では多くの科目が必要になってくるので、一般枠4クラスが必要である。
- 単位制は、前期、後期と単位修得しやすいということがあり2学期制をとる必要がある。
- 単位制も実際には、課題も出てくると思うが、実施しながら検討しながら解決していくものである。

【修正】素案P26 VII 再編・統合のイメージ
中期計画 北谷高校再編後（北谷5クラス）
→（北谷全県募集2クラス 一般募集4クラス）

(2) 南部フューチャースクール（仮称）

南部工業高等学校再編

- 北谷高校と同じように3クラス必要かというのは気になる。
- 南部工業高校を沖縄水産高校と統合して、南部総合実業高校（仮称）ということであるが、他県では、入学した学校で卒業する方法が取られているようだが、フューチャースクールを実施するときには在校生は全学年一斉に移す必要がある。
- 実施するときには設備が残っているのは困る。ここは、太良高校と同じように不便な場所である。北谷よりも厳しいのではないか。
- 単独校としてのイメージが、悪い感じがする。交通の便が悪くて、生徒が集まるか心配である。活気もないのではないか。
- 実際にスタートさせないとわからないことだらけである。
- 真和志高校は元々このような学校ではなかったが、生徒を送り出す方としては、学校に来ることができない、そのような生徒を受け入れ元気にしてもらっていることで感謝している。南部工業高校跡は通学の便が気になる。
- 不登校の定義は怠学気味の生徒も入っていて、理由なく30日以上休

フューチャースクール単独校として必要最低限の人数として考えています。

素案に再編統合の方法を示しています。他県では入学した学校で卒業する方法が多くとられているようですが、実際に計画を実施するとなると予算も伴いますのでこれから検討することになります。

フューチャースクールを実施するときには、生徒を全学年一斉に移す必要も考えられます。

フューチャースクール設置については、地域の理解を得るため、今後説明を十分に行なう必要があると考えます。

交通の便は多少不便ではありますが、南部地域の中心に位置し立地としては那覇南部地域からの生徒も受け入れられると考えます。

また、遠隔地からの通学を考慮し、始業時間をあ

んだものであると考えるが、フューチャースクールでは心因性の不登校に特化したものを指していると理解する。このような学校をつくることはいいことだと思うが、受け皿をしっかりとの方がよいと考えている。

- 南部工業高校の周辺地域への情宣をしっかりとしておく必要がある。
- 現在の役割を考えると、真和志高校をフューチャースクールにして、南部工業高校を売却して教育予算に充ててはどうか。
- かつて、真和志高校に勤めた者としては、現在いい方向に向かっていて活性化しているところなのでもう少し様子を見て欲しい。真和志高校の今の生徒と心因性の生徒がうまくいくかどうか心配される。
- いい意味で注目を集めて、いい方向へ向かうといいのではないか。
- 南部フューチャースクール（仮称）は提案されたとおりのことにしたい、様々な懸念されることもあるが、克服してスタートして欲しい。

る程度遅らせる等の措置もフューチャースクールとしての特色だと考えます。

真和志高校については、検討段階で挙げたことでもあります。今回福祉コースを福祉学科にする計画もあり、また、現在も那覇地区の多様な生徒を受け入れている学校でもあるので見送りました。

2 定時制課程再編

(1) 那覇工業高等学校

- この計画是那覇工業高校の定時制を午前部、昼間部、夜間部に分け、さらに夜間と併置する形で中学生を支援するセンターを組み入れる計画である。現在的那覇工業高校は何クラスか。計画のクラスはどのようになっているか。
- 那覇工業高校に現在ある学科はどうなるのか気になる。学校側とも慎重に調整検討しないとイケない。
- 今、工業高校で取得可能な資格は夜間でもとれるようにして欲しい。
- 泊高校午前部の定員オーバーで弾かれている状況があるので、計画の午前部、夜間部はありがたい。
- 那覇工業高校は全て定時制に変わって、三部の普通科、工業科になる。

全日制課程は7クラス、定時制課程は3クラス計10クラスです。定時制課程再編では午前部、昼間部、夜間部あわせて10クラス規模で考えていて、学科の編成やそれぞれ何クラスを充てるかということは、今後学校等との調整によります。

泊高校午前部は23年度入試において、一般定員120名対し、158名が志願している状況があり、約1クラス分弾かれています。22年が12名、21年が50名となっています。

定時制三部制導入については、様々な課題が山積しており、今後先進校の状況等を参考にしながら検

<p>○那覇工業の再編については、定時の三部制に再編するということが、今まで全日制の工業に志願していた7クラス分の生徒の受け入れに関して指摘されている。</p> <p>那覇工業の再編の中に中学生の支援センターの位置づけがされているが、中学生を高校生のいるところに受け入れるということで様々な課題の指摘がされている。</p> <p>○那覇地区の中退者、不登校者の中で定時制課程に進んでいる者、全日制課程に進学している者、未就学の者はそれぞれ何名か。</p> <p>○泊高校午前部でまかなえない数は何名か。</p> <p>○実態としては、あと1クラス分あればまかなえる。それと、中退者の受け入れを幅広くしたい、あるいはフューチャー的な発想も含まれていると考えるがどうか。</p>	<p>討を重ねていくことが必要だと考えます。</p> <p>平成23年度、那覇南部地区の中退者数476人のうち、県立の全日制高校に進学している者16人、定時制高校に進学している者12人、通信制高校に進学している者5人、私立の全日制高校1人、通信制高校2人 進学者 計36人</p> <p>専修学校9人、予備校1人、就職83人、無職18人、アルバイト121人、家事手伝い15人、病気療養中4人、引きこもり2人、予備校へは行かず進学準備18人、留学1人、資格取得中3人、青年開発隊1人、結婚1人、出産育児18人、死亡4人、連絡不通56人、その他26人</p> <p>初回志願ではじかれた者はH23午前38人、夜間9人、H22午前部12人、夜間部定員不足、H21午前部50人、夜間部定員不足、H20午前部10人、夜間部定員不足、H19 午前部11人の推移となっている。</p>
<p>○那覇工業を定時制に再編した場合は、高校に再入学しなかった生徒は入学してくる見込みがあるのか。</p> <p>○那覇工業高校では昼間部、夜間部に工業科も設置され、工業の資格取得が可能であれば、中学生の進路選択の幅が増えることと工業に関する学び直しの意味合いが含まれているとしたらよいと思う。</p> <p>○全日制課程が無くなることを考えないといけない。</p> <p>○沖縄工業や浦添工業にクラスを割り振ることがあったのでよ</p>	<p>平成22年度的那覇地区の中退率は4.5%となっております。県の平均が1.8%なので高い値で推移しており、改善の必要があると考えます。</p> <p>生徒の多様なライフスタイルや学習ニーズに合わせて、生徒にとって魅力的な学校づくりができるものと考えます。</p> <p>また、現在の全日制と計画している10クラス程度</p>

いのではないか。

○今まで那覇工業に向かっていた子どもたちの学力的な面から考えると、この2校に向かうかという問題点がある。子供たち全員が普通科や工業に明確に目標をもって進んでいるかということからすると難しい。

○全日制の7クラス分の子どもたちが宙に浮いている状況だ。この子どもたちをどこが受け入れるのか。

○全日制と定時制の問題を考えると、この基本方向の中で定時制の議論をしておこなった。基本方向を決めないとなかなか議論しづらい。三部制というものも初めての取り組みだし、できれば三部制で成功している事例等を紹介してほしい。

○三部制のメリットがはっきり出されれば納得できると思う。今は課題ばかりが出されているので判断が難しい。

○7クラスの生徒は浦添工業かあるいは三部制に進学することになるかとは思いますが、入学する生徒の実態や中退の状況、泊午前部からはじかれる生徒たちの状況からニーズはあると考えるならば全日制がなくなるという不安に対して三部制のメリットをうまく伝えることになるかと思う。中学校の無目的や学力不振などの生徒たちにとっては魅力的な学校ではないかと思う。

○午前部の普通科と夜間部の普通科を併せれば3年で卒業できるというのであればこの形でもよいと思う。

○オートバイや車等工業に関して興味のある生徒が、泊に志願するとは思えない。けどそこしか行けないという生徒にとって、この学校では目的を見出すことは十分にあると考える。

○内容的なことは了解の方向であると考えているが懸念材料が多いので今後十分検討していただきたい。

の三部制の併置は教室、施設設備面から厳しいと考えます。午前部、昼間部、夜間部それぞれ3~4クラスを設置すれば、施設の有効活用ができ、弾力的な教育課程も可能であると考え、単独校として判断しました。

東京都に八王子拓真高校という学校がある。以前は商業科の学校であった。普通科の単位制でそれぞれに多様な選択科目を設定しており以前の商業の科目等で資格取得も出来るようにしてある。単位制多部制を導入している都道府県は平成23年4月1日現在42県で学校数は128校である。

生徒の多様なライフスタイルや学習ニーズに合わせて、生徒にとって魅力的な学校づくりができるものと考えます。

既存の工業に関する学科等の特色を活かしながら多様な学習ができることを打ち出して生きたいと考えます。

また三部制のよさを活かした三修制も取り入れていきたいと考えます。

(2) 中学生支援センター (仮称)

○中学生の支援センターは夜間部にあるが、昼間部ということも考えられたが、中学生支援センターを昼間におくと、市町村教育委員会

現在市町村教育委員会では、昼間の居場所作りとして、それぞれこのような施設を設置しておりま

- と生徒の取り合いになる。
- 市町村の遊び型非行の生徒を受け入れている施設では、農業・漁業等の体験学習をやり、心をほぐし学校に戻すようにしている。那覇市では非行傾向の生徒を対象としている「きら星学級」がある。
 - 昼間学校にいるなら学校で面倒を見たい。しかし、このような子どもたちは得てして、朝、昼は学校に来ることができない。このような生徒（遊び非行型など）は、仕事をしたいと思っている。資格を取ることができたらなおよい。
 - 素案にある「中学校教諭、警察、民生員、その他関係機関の人材も指導員として派遣する」に魅力を感じる。
 - この子どもたちが、（定時制再編の学校に）はたして行くのか。高校生がいる学校に来るかどうか。
 - 趣旨はよくわかるが、何かが起こった時に責任の所在はどこにあるのか今後調整、検討を要する。
 - 泊の就学支援センターをもっとうまく使うことができないか。充実させる必要があるのではないか。
 - 中学生支援センターについては、むしろ市町村がやるべきことではないか。市町村がやることを県立がやることについて何か問題がないか。
 - あくまで市町村教委が行っている取り組みを支援、補佐するという意味だと考えるが。
 - 具体的には人的な配慮がされるのか。教室を設置してそこに教員を配置することになるのか。形だけをつくって本当に機能するのか。スクールカウンセラーやソーシャルスクールワーカー等が常勤で配置されないと、学校、行政、家庭、地域との連携がうまく働かないと考える。市町村立は県立に委任してしまう結果にならないか。もっと市町村立でやらなければいけないことがある。
 - 新しいことをやろうとするとたくさんの課題があることは事実である。指導者、連携の問題、スタートしても子どもたちの指導を誰がやるのか等、構想としてはよいが具体化するととなると課題が山積で

す。那覇市では非行傾向の生徒を対象としている「きら星学級」があります。昼間は市町村教育委員会の権限のもとで、夜間は中学生支援センター（仮称）でと住み分けをしたいと考えます。

この施設の特徴を出すためには、これらの人員配置等を図っていく必要があると考えます。関係機関との意見交換では、来させるように仕向ける必要があると言う意見を頂戴しております。市町村教育委員会との連携や中学校との連携が今後重要になると考えます。

那覇市と浦添市で非行、刑法犯等の子どもたちが県全体の約30%を占めることと、昼間の市町村教委の施設等とのリンクを計り、夜間の受け皿として大人の目の届く場所で学びの導き、高校への導きをして救いたいというのが設置の理由です。那覇市と浦添市とタイアップしてモデル校的な形で進めていきたいと考えます。

この施設の特徴を出すためには、これらの人員配置等を図っていく必要があると考えます。生徒から希望があれば基本5教科（英数国理社）の学習支援も考えております。家庭訪問、本籍中学校との連携等教員でなければできない仕事なので教員配置を考えております。他にもスクールカウンセラーや関係機関・団体と

	<p>ある。</p> <p>○考え方は理解できる、中学校にとってもありがたいと思う。若夏学院は、非行を重ねないと入れないので、その一歩手前で受け入れることができるような施設であればよいと考える。それができないのであれば若夏学院のような施設を県下にもっと設置してほしいと考える。</p> <p>○課題はたくさんある。例えば学校には来ても帰りに夜遊びしないかとか不安がある。</p> <p>○秋田県のスペースイオは不登校の子どもたちをうまく高校につなぐという役割を果たしていると認識している。しかし、沖縄県の場合は中学生の非行が多いということに問題が大きい。それについては全員が認識していると思う。義務教育でやる高校がやるということではなく本当は県民総ぐるみで取り組まないといけない課題である。中学生支援センターは一つの芽だしとして全県的に広げていく仕組みにしてほしいし、若年者非行の課題を克服できるようなものにしてほしい。</p> <p>○関連機関・団体との意見交換等を重ねてできるだけできないを含めて十分な議論をしてほしい。基本的な考え方としては了解である。</p>	<p>の連携で人員派遣等も必要になると考えます。</p> <p>実施計画が策定された後、実際の計画段階においても準備期間を設け、そこでの議論も充実させることを考えております。</p> <p>実施計画は県の教育課題に対応することで計画を策定しております。</p>
<p>IV 後期計画 平成29年度～平成33年度</p> <p>1 南部総合実業高等学校（沖縄水産高等学校学科改編）</p>		<p>沖縄水産高等学校学科の改変については、早期に統合後の新設校の機能充実を図る上で前期計画において統合と同時期に実施します。</p> <p>【修正】素案P19 VI 後期計画 1 南部総合実業高等学校（仮称）学科改編 → 削除</p>
<p>2 伊良部高等学校を宮古高等学校に統合</p>	<p>○架橋の影響により人口が増えることは予測できず、子どもの減少もあるのでそうせざるを得ないというのはわかるが、逆に統合ということが過疎化を助長しないかと懸念する。P21に「定員が過半数を割</p>	<p>ご意見のとおり、平成26年の伊良部大橋架橋によって、島外から伊良部高校に入学する可能性もあり入学者の推移を注視することとします。</p>

ると実施期間を待たずに実施します」とあるが、過半数を割らなければ統合はなくてもよいのではないかと考える。

○データから平成24年度から過半数が割れる。学校がなくなることで過疎化が懸念される。

○P21の「定員が過半数を割ると実施期間を待たずに実施します」と四角で囲んだ部分を率直に読むと過半数が割れなければ残すことという意味だと思う。

○囲みの文章の内容は後期を待たずに実施するという意味で捉えている。後期計画では、確実に宮古高校に統合するという意味だと理解している。

○宮古島市の中学校の統廃合とそこから見える課題と関係があるのか。

○逆に架橋ができた場合、伊良部高校を宮古高校とは違う魅力ある学校にすることで生徒を呼び込むことは想定できないか。

○架橋の影響はあくまで推測に過ぎないので、提示されているデータ等による判断をお願いしたい。

○伊良部の特色を有する学科等について。例えば橋が架かったら伊良部島以外からも生徒が集まるような航空学科とか魅力ある学科づくりをめざすことも考えてよいのではないかと考える。

○地域に主体者意識を持たせ、どうしたら学校を存続することができるかということも含めて、地域や宮古島市から対案を出させて議論を重ねることも意味があると思う。

○計画実施まではまだ時間があり、地域や学校の努力があって生徒数が増えた場合は方向性が変わるということも押さえないといけない。

架橋により状況が変わる場合は計画の見直しもあるということだ。

○この件は原案のとおり了解。

【修正】素案P21 【具体的な実施方法及び次期】

囲み部分

ただし、実施期間までに架橋による影響等により定員が過半数を割る状況が続いた場合は、実施機関を待たずにその翌年から実施します。



ただし、実施期間までに架橋による影響等により定員を満たした場合は計画を再検討します。

宮古島市の計画との関連性はありません。

そのような要素も含めて後期計画に位置づけております。宮古島市の関係者等のヒアリングでは、架橋の影響をみてから判断してほしいという意見が主流でした。

伊良部高校が生徒数増が見込める場合は当然考慮すべきだと考えます。しかし、生徒数増が見込めない状況で学科を新設しても、ニーズが合わなかった場合に定員割れを起こすということになりかねません。

現在の県の教育課題が存在することには方向性を示すことが教育委員会の責任であると考えます。しかし、架橋により状況が変わる場合は計画の見直しもあると考えます。

3 陽明高等学校の介護福祉科の廃科と真和

○陽明高校の介護福祉科と真和志の介護福祉コースはどちらも先行き

後期計画に置いた理由として、計画そのものの見

志高等学の介護福祉コースを学科に改編

不安な状況である。真和志を学科にしても法改正により資格取得が厳しく見通しは立たないと思う。もしそれが成り立たないのであれば陽明高校の廃科は矛盾しているという印象がある。

○発想を変えて陽明高校と真和志高校の件は別であるとの認識に立ったほうがよいのではないか。

○法改正は両方に係るものである。法改正が廃科の理由とはならない。廃科の理由は志願者の定員割れが続いていることではないのか。

○この案に賛成だ。真和志高校にとっては学科に昇格させることにより活気づくと思われる。

○逆に陽明高校は介護福祉科がしばらく続くがこれでよいのだろうか。

○やはり分けて考えた方がよいと思う。志願者の減で介護福祉科の今後に不安が残るので総合学科に盛り込むということを明記したほうがよい。真和志高校は国家試験資格のための教育課程を整備したので学科にするということを明記すればよい。

○県民にわかりやすくするため、編成整備計画に載せるほうがよい。

○陽明高校から総合学科への申請はないのか。陽明高校は介護福祉科があることで生徒は充足してないのだろうか。

直しの可能性があると言えます。

陽明高校は今年の卒業生から国家試験受験資格は取得できない状況です。そうであれば総合学科の系列として置き総合学科そのものを充実させるほうが学校の活性化にも得策であると判断しました。

また、法改正に伴い、真和志高校が教育課程充実を図ったことと以前から学科改編の希望があること。このことがリンクさせた理由でもあります。

編成整備に載せることということは編成整備上の課題があるということで、学科の入学者の状況と国の法改正の影響が大きいということから判断しました。

提案については、パブコメ終了後に検討します。

介護福祉士の資格取得の要件が問題になっていますが、陽明高校はそれ以外のことを学びながら福祉マインドを中心に学び、次のステップにつなげるということも学科の役目であると考えます。

提案については、パブコメ終了後に検討します。

定員割れは起こしているが一定の人数は確保しております。受験資格が取れる時は充足しています。今後は受験資格が取れる準備がないし、その用意もありません。

陽明高校から学科改編の話はありません。事務局では、那覇地区の福祉系の生徒を育成するにはどうするかということを論点に議論してきました。

- 陽明高校の介護福祉科を廃科にする理由は受験者数の減だということだ。例えば授業時間の増と単位数増は真和志高校でも実際に可能なのか。
- 陽明高校の生徒たちが介護福祉科に持っているイメージはとても強いと思う。陽明高校から介護福祉科がなくなったら陽明高校への志願者が減らないか心配である。
- 系列を残すことで歯止めになるのではないか。
- 系列は表だって見えない。学科があるということと系列の中にあるということは違いがある。
- 総合学科を受検する生徒も、介護福祉科があるから受検するのではないか。
- 福祉系列を残したら総合学科のメリットがあると考える。
- 総合学科の選択の幅は広がることはあるがイメージが大切だ。
- 国家試験の受験資格を取得できないと学科という看板はかけられないのか。
- 国家試験受験資格取得は今後もさらに厳しくなる。全国校長会の福祉部会長も厳しくなるという意見を話していた。陽明高校の福祉学科も計画実施までにその要件を満たすということになるかもしれない。今すぐ結論を出すということは難しいと思う。
- どうなるか解らないが、陽明と真和志と別々に書けないか。そうであれば中期における可能性もある。
- この件は基本的な方向性は原案通りとする。

解決すべき課題は多いと考えます。大きな課題なので編成整備計画に載せ後期計画に置いた理由でもあります。

総合学科の系列に組み込むことで歯止めになると考えます。

福祉系列を残し、選択制として生徒のニーズに合わせれば、総合学科の活性化を図ることになると考えます。また、学校の活性化にもつながると考えます。

コースでも取得できますが職員数の関係からすると学科の方が有利な部分があります。

提案については、パブコメ終了後に検討します。

IV 長期的な計画 平成24年度～平成33年度

1 過大規模校の適正規模化

- 対象校には440人定員に900人が入学説明会に集まった学校もある。1,000人集まった学校もあると聞いている。規模の適正化は慎重にお願いしたい。
- しかし希望者が多い学校があるとその裏には志願者が少なくてあえている学校があることを理解しないといけない。

対象校は絶大なニーズがあり、長い目で見ないといけないことだと判断し長期的な計画に位置づけております。

素案P23 リード文3行目
「いずれの計画も地域の実態や生徒、保護者の

<p>○過大規模校も適正規模化すればもっと活性化すると考える。志願者が多いことも魅力だが、それだけ生徒の幅が広がることだ。入学定員が減れば学校の教育目標により近づける生徒たちが集まるのではないか。ニーズがあるからといって検討しないことには疑問を感じる。</p> <p>○「いずれの計画も地域の実態や生徒、保護者のニーズを的確に捉え、時宜に応じた実施に取り組むこととなります」に賛成だ。</p> <p>○素案策定の際に現場の教員や保護者意見は反映されているのか。高校からは、レベルの高い教育を望んで親は受検させるが、志願者の少ない学校が毎年出ている実態がある。定員割れを何とかしようという組織はあるのか。学校も保護者も地域も行政も一体となって、原因追求をして解決の糸口を導き出すことができないなら10年後も同じ話をする事になる。</p> <p>○各学校は必死で定員割れ防止の対策をやっているし、このような地道な活動が実を結んでいる。</p> <p>○それはわかるが実際に定員割れを起こしている学校はある。現場だけではなく行政も含めて定員割れの原因に対してそれに対して解決を計るような取り組みをしなければ10年後の懇話会に同じような話をする。行政の力も借りながら保護者の意見や教員の意見を汲み取りながら解決を図ることが大切ではないか。</p> <p>○学校規模の適正化を解決できれば様々な課題が解決できると考える。だから適正規模化を推進することが必要である。1校あたりの平均クラス数は全国的にみても上位に位置している。この問題は今後大きな課題として検討してほしい。</p> <p>○効果が期待できるのであれば、積極的に推進すべきではないか。11クラスを9クラスにするとか具体的に計画したほうがよい。</p> <p>○専門学科にも沖縄の特色をもっと盛り込んだものができればよい。</p> <p>○フューチャースクールについては地域で議論が出ている。特別支援を要する生徒もそうでない生徒にも双方に配慮しなければならない。</p>	<p>ニーズを的確に捉え、時宜に応じた実施に取り組むこととなります」</p> <p>直接お話を聞くことは難しいので、昨年中学生、その保護者、高校生その保護者、教員、県民から大規模なアンケート調査を実施しております。</p> <p>提案については、今後関係各課とも調整し対応を考えていきたいと考えます。</p> <p>提案については、今後関係各課とも調整し対応を考えていきたいと考えます。</p> <p>素案P23 リード文3行目</p> <p>「いずれの計画も地域の実態や生徒、保護者のニーズを的確に捉え、時宜に応じた実施に取り組むこととなります」</p> <p>対象校は絶大なニーズがあり、慎重な対応が必要になると考えます。</p> <p>高等学校は、生徒の多様な変化やニーズを考慮し、時代の変化に対応しうる教育の方法を研究しながらより一層魅力と活力ある学校づくりを推進していく必要があると考えております。このことが、ミ</p>
--	---

	<p>○高校入学の際、子どもたちのミスマッチをなくすことが重要だ。専門学科も小学科に分かれすぎて、子どもたちが何を学ぶのか理解しにくい部分がある。小学科の整理統合を検討してほしい。これを機会に入試制度も見直したらどうか、2次募集、推薦制の問題を県立学校教育課で検討して改善できるものは改善してほしい。これまで懇話会で論議した編成整備とも必ず関わりがある。</p>	<p>スマッチを解消する手立てにもなると考えます。</p> <p>入試制度見直しについては、編成整備計画と直接の関連はないと考えますので回答は控えさせていただきます。</p>
<p>2 沖縄インターナショナル中等教育学校 (仮称)</p> <p>3 中等教育学校 (仮称)</p>	<p>○全国的には中高一貫校が402校、連携を除いた中等教育学校が48校、併設型が273校ある中で沖縄県では併設型が1校しかないことはいかかなものか、長期的な計画で位置づけられているが沖縄の子どもたちには大切なことなので早め早めに検討してほしい。</p>	<p>素案P23 リード文3行目</p> <p>「いずれの計画も地域の実態や生徒、保護者のニーズを的確に捉え、時宜に応じた実施に取り組むこととなります」</p>
<p>VI 再編・統合の方法 (具体的な方法イメージ)</p> <p>1 廃校・廃課程・廃科になるまで該当校に在籍する場合</p> <p>2 募集停止と同時に在校生を統合先の学校へ移動する場合</p>	<p>○意見なし</p>	
<p>VII 再編・統合のイメージ</p>		